



市川市教育振興基本計画

～次のような目標を掲げています～

- 子どもの姿** 自分や他人を大切にし、社会の中でたくましく生きていくことのできる子どもを育てる
- 家庭・学校・地域の姿** 自らの役割と責任を担いながら、たがいに連携して教育の向上に取り組む家庭・学校・地域を実現する
- 市川の教育の姿** 教育環境の整備を図り、質の高い市川の教育を推進する

■発行
市川市教育委員会
〒272-0023
市川市南八幡1-17-15
TEL 334-1111
■企画編集
市川市教育センター
〒272-0015
市川市鬼高1-1-4
TEL 320-3335

市川市初！義務教育「4・3・2制」導入！

～塩浜小中一貫校の特色・通学範囲を紹介～

新教科

「塩浜ふるさと防災科」

平成27年4月開校予定の塩浜小中一貫校に関する基本計画が8月に決定いたしました。そこで、今回は、基本計画に記載されている塩浜小中一貫校の特色ある7つの取り組みと通学できる範囲についてご紹介いたします。

○塩浜小中一貫校、特色ある7つの取り組み

・「4・3・2制」の学年区分

小学校1年生～4年生を前期（基礎期）、小学校5・6年生と中学校1年生を中期（充実期）、中学校2・3年生を後期（発展期）の3つに区分し、発達段階に合わせた指導及び活動の推進を図ります。

・系統性・連続性を重視した教育

義務教育9年間を見通し、途切れることのない一貫した指導方針のもとで、子どもたちの精神的、身体的な発達に即した独自の「小中一貫の指導計画」を作成し、系統性・連続性を重視した教育を行います。

また、9年間という大きな枠の中で、学び直しの機会を保障します。

・中期からの教科担任制

小学校5年生から一部教科担任制を導入し

て専門性の高い指導を行い、わかる授業によって学力の向上を図ります。

・中期からの部活動

小学校5年生から部活動に参加できる環境を整え、部活動の活性化を図ります。

・塩浜ふるさと防災科の新設

9年間を貫くカリキュラムとして、「塩浜ふるさと防災科」を新たな教科として創設し、地域に誇りや愛着を持った思いやりのある豊かな心と、自主的に問題解決を行い、たくましく生きる力を育成します。

・理数教育の充実

算数・数学では繰り返し学習や発展的な学習を取り入れ、個に応じた指導を進めます。また、理科では実験や体験の機会を充実させます。

・きめ細やかな教育の推進

塩浜小学校及び塩浜中学校で実施してきたき

○通学できる範囲

小学校1年生～6年生（前期1年生～4年生、中期5・6年生）までは、中学校の通学区域である南行徳3・4丁目について、「小中一貫校を選択できる地域」といたします。

小中一貫校としては、指定学校の変更範囲を緩和し、行徳支所管内（江戸川放水路まで）からも通学が可能となります。（受け入れの上限を設定。通学経路の安全を確認します）

なお、中学生の通学に際し、自転車通学の可否について、条件や安全面を含めて現在検討中です。

基本計画の詳細や中学生の通学など、塩浜小中一貫校に関する情報につきましては、市川市教育委員会のホームページ（「市川市立塩浜小中一貫校」）に随時掲載しておりますので、ご覧ください。【教育政策課】

全国学力・学習状況調査 全国平均を2年連続上回る

◎全国学力・学習状況調査および市川市学力・学習状況調査の結果について

小学校6年生、中学校3年生を対象にした「全国学力・学習状況調査」（以下、「全国調査」）および、小学校5年生、中学校2年生を対象にした「市川市学力・学習状況調査」（以下、「市川市調査」）を実施しました。「全国調査」は、昨年に引き続き2年連続で全国平均正答率を上回りました。これは各学校で確かな学力の育成に取り組んできた積み重ねが成果となって表れたものです。以下、結果と分析の概要です。

（1）学力調査の結果

【結果】「全国調査」の結果は、「国語」「算数・数学」のA（主に知識に関する問題）、B（主に活用に関する問題）のいずれにおいても、小・中ともに昨年度に引き続き全国平均正答率を上回る結果となりました。また、今年度は全国平均の上回り方が昨年度と比較して高くなりました。

「市川市調査」の結果では、全体的にほぼ平均正答率に近いものの、中学校「数学」で平均を上回った以外は小学校「国語」「算数」中学校「国語」ともにやや平均を下回る結果となりました。

【分析】「全国調査」・「市川市調査」の正答傾向を見てみますと、国語では、問題文中の登場人物の心情や人物同士の関係をとらえるなどの「読む能力」が高くなっており、算数・数学では、文章問題を数直線で表したり、式で表したりするなどの「数学的な見方や考え方」が高くなっている一方、国語の漢字や文の構成に関する「書く能力」、算数・数学の「図形」や「資料の活用」に課題があり、今後さらに力を入れていく必要があります。

		市川市	千葉県	全国
小	国語A	77.0	75.8	72.8
6	国語B	57.6	55.5	55.5
中	国語A	80.4	79.8	79.4
3	国語B	52.4	51.7	51.0
小	算数A	79.1	78.2	78.1
6	算数B	61.7	58.8	58.2
中	数学A	68.3	66.7	67.4
3	数学B	61.7	60.1	59.8

平成26度全国学力・学習状況調査
教科区別調査結果(平均正答率)

（2）学習状況調査の結果

「全国調査」・「市川市調査」では、学力検査と同時に学習状況調査を実施しています。これは、児童生徒が自分の学習状況についてアンケート形式で回答するもので、本市全体の傾向は「学校が好き」「自分が住んでいる地域が好き」「自分はよい所があると思う」「将来の夢や目標を持っている」などの回答が全国平均を上回り、自己肯定感が比較的高いということがうかがえます。また、「朝は自分で起きている」「朝食を毎日食べる」等の基本的な生活習慣についても昨年度に引き続き全国平均よりも良い結果となっています。

報道等でも取り上げられましたが、学力との相関関係が認められるものとして、生活習慣の確立や家庭でのコミュニケーション、携帯電話やスマートフォンの使用時間、自尊意識や規範意識、家庭学習時間、読書習慣といったことがあげられます。このことは、市川市においても同様の傾向となっています。

◎一人一人に応じたきめ細かな指導の推進

これらの調査結果は、自分の結果を振り返り、今後に生かすことができるように、子どもたちにもそれぞれ個人票としてすでに届けられています。学校は自校の調査結果を分析し、それを踏まえて授業改善や指導方法の工夫に取り組めますが、市川市教育委員会においても今後の事業改善に役立て、一人一人に応じたきめ細かな指導の推進を図ってまいります。

今年度から各学校でスタートした「校内塾・まなびくらぶ」も、子どもたちの学習意欲を引き出し、学習習慣の定着を図ることを目指して実施しているものです。ご家庭の協力も得ながら、家庭学習の充実を図るなど、今後の学力向上に努めてまいります。【指導課】

子どもたちの学力や学習の状況を把握するため、市川市教育委員会では「全国学力・学習状況調査」と、「市川市学力・学習状況調査」を実施しました。なお、「市川市調査」は、希望する小・中学校が任意で参加しているものです。

◇ 教育委員と児童生徒との交流会 ◇

教育委員会が子どもたちや保護者、教職員の意向を知り、基本計画の策定及び改定に反映させるため、教育委員と児童生徒や保護者、教職員との交流会を行っています。
今年度は小・中特別支援学校のうち12校で実施します。



9/17 妙典小

5年生の授業に参加しました。
「自分の考えをしっかりと発表する様子に感心しました」「みんな素直でクラスの雰囲気があたたかいですね」(教育委員)

3年生と6年生の授業を参観後、6年生と給食交流を行いました。「子どもたちが生き生きとしており、勉強を楽しそうにしていました」(教育委員)



9/25 信篤小



10/11 第三中

道徳講演会の後、1年生と講演会の内容について、意見交換を行いました。「生まれたことは奇跡、これからは奇跡の連続。親として子どもは本当に大切なのです」(教育委員)
【教育センター】

健康教育講演会



～料理研究家 **コウ ケンテツ** 氏を
お迎えして～



「**食**べる**こ**と」の大切さ

— 子どもの成長を考えて —

8月20日にグリーンスタジオにおいて、市川市学校保健会と市川市教育委員会共催の健康教育講演会を開催しました。平成元年度にスタートしたこの講演会は、子どもたちの健康増進と疾病予防を目的として、体育・保健・食育と視点を毎年変えながら実施しています。今年度は「食」をテーマに、多方面でご活躍中の料理研究家 **コウ ケンテツ** 氏をお迎えしました。

今日食べた料理は、明日すぐ影響が出るわけではなく、日々の積み重ねにより未来の健康につながる。「食」を通して人はつながっていること。ごはんを食べる時間は、家族にとってとても大切な時間であり、顔を合わせて食事をするにより、お互いの体調や心の健康が手にとるようにわかること。料理をすることは、完成までの手順を考えたり、五感を働かせたりすることにより、脳の活性化につながる。そして、最後に「頑張り過ぎないHAPPY子育て」として5つポイントをお話いただきました。

コウ先生のお話を伺い、「食について」改めて考える貴重な時間となりました。
【保健体育課】

心のつながいを大切にする『子どもを叱るときは、
家庭教育(連載2) 何処が悪かったかを理解させることが大切です！』

子どもを叱るときは、子どもの前に立ち、目を見て叱ることが大切です。どこがいけなかったのか、何に対して大人が腹を立てているのかをしっかりとって聞かせることが大切です。時間はかかりません。子どもはすぐに涙を流しはじめます。

子どもが理解したと思ったら、もう言葉は必要ありません。ここでしつこく叱ったら逆効果です。後は、子どもが気の済むまで抱きしめてやるのが、子どもが小さいときには特に大切なことです。

大洲中清掃ボランティア

花火大会の後



市川市民納涼花火大会翌日の8月3日に、学区周辺の江戸川の土手沿い、市川橋に向かって約500mの範囲に渡り、ボランティアによる清掃活動が行われました。

大洲中学校の生徒と教職員が約160人、そして保護者や地域の方々にも協力をいただき、総勢、約240人の参加により、江戸川の長閑な景観が復活しました。
積極的にボランティア活動に参加しようとする意識が、豊かな人間性や社会性を育む大きな糧となります。保護者の方々にも見守られながら、地域の一員として、活動する大洲中生の生き生きとした姿は、青空と江戸川の景観を一層引き立てていました。
【教育センター】



二俣幼稚園 公開研究会

一人一人が主体的に取り組むための援助の在り方を

7月9日に二俣幼稚園で公開研究会が行われました。この公開研究会は、創意と活力のある学校づくり・市川市公立幼稚園幼児教育研究会の研究指定によるもので、市川市教育委員会の関係者や幼稚園の教員等、約120名が参加しました。

研究主題を「一人一人が主体的に取り組むための援助の在り方を探る ～保育者の言葉かけをとおして～」として、年少組が「ペンギンゲーム」(椅子とりゲーム)を、年長組が「プール遊び」を行いました。

年少組の「ペンギンゲーム」の場面では、椅子に座れなかった友だちの名前を呼んで自分のひざに座らせることにより、この時期の発達段階に応じて「友だちを意識できる」ようにしていました。

年長組は、フィルムケースをつなげた手作りのコースロープで仕切ったプール内で、ロープくぐりやワニ歩きをした後、「け伸び」に挑戦しました。これは自己肯定感や自己決定の第一歩となり、今後の生活に自信を持って取り組んでいくことにつながります。

全体として、保育者が前面に出るのではなく、仲間同士が認め合い、気づかせていく言葉かけの場面が多くみられ、研究の成果が表れていました。

【教育センター】



防災教育宿泊体験

福栄小

8月28日、29日に福栄小学校において4～6年生の希望者を対象に防災教育宿泊体験が行われました。

市川市では、市内39校の小学校区毎に防災拠点協議会の設置を推進しており、福栄小学校区防災拠点協議会は今年1月に発足、この防災教育宿泊体験は、福栄小と同校の防災拠点協議会が共催する市内で初めての宿泊体験となりました。

震度5強の地震が発生したと想定し、同校の防



災拠点協議会が避難所を開設・運営するこの訓練には、児童や地域住民ら約70名が参加、その他に行徳総合病院の看護師や順天堂大学の学生、市防災課や市消防局の職員が協力しました。

児童は午後3時半に避難所に集合、夕食を避難食で済ませ、地域防災課の職員による「自分の身は自分で守る」という内容の講義を受けた後、防災倉庫にあるマットレスを使い教室で宿泊体験を行いました。

翌日は市消防局の職員からAEDの使用方法や応急手当の講習を受け、児童は午前10時半に解散。参加した児童は「見知らぬ地域の人が助けてくれ、優しさを感じました」「もっと非常食のことについて知りたいです」と話していました。【教育センター】



中学生海外派遣事業は、今年で23年目を迎え、ドイツ・ローゼンハイム市への派遣も11回目となりました。

◆ 今年、市川市とローゼンハイム市のパートナーシップ締結10周年の記念行事が開催され、大久保市長、田中教育長をはじめ多くの関係者が現地へ赴きました。派遣生徒たちも記念行事に参加して、事前研修会での成果を披露しました。

◆ 出発前の生徒たちは一様に大きな期待と共に不安でいっぱいでしたが、日本では得られない貴重な体験と自分への挑戦ができ、充実感と満足感に満ちた笑顔で帰国しました。「異文化に触れたい」「消極的な自分の殻を破りたい」「多くの友達をつくりたい」など、出発前に生徒たちが目標としていたことは十分に達成できたようです。この体験を糧として更にたくましく成長してほしいと願います。

◆ 10月にはドイツ生徒の受け入れがあります。より多くの生徒たちがドイツ生徒との交流を通し、自分の可能性を広げてほしいものです。【指導課】



未来へ「つながる」小さな一歩

市川市児童生徒科学展

9月6日、7日の千葉県立現代産業科学館の会場は、子どもたちの工夫を凝らした作品の数々、そして理科好きの子どもたちや保護者、一般の方々の熱気で満ち溢れていました。各学校から選ばれた作品は全部で535点、そのうち64点が入選しました。入選作品のうち29点が10月18日、19日に千葉県総合教育センターで行われた県の科学作品展に出品されました。市の科学展には2日間で3,800人以上の方に来場いただきましたが、これだけ多くの方々にご覧いただけることは、出品した子どもたちにとっても大きな喜びと自信につながったことと思います。

こうした経験を重ねる中で、子どもたちの科学に対する目や心が育ち、近い将来日本を背負って立つような科学者がこの中から生まれるのではないかと期待しています。市川から日本そして世界へ、がんばれ科学者のたまごたち。

なお入賞作品は、市川市教育委員会ホームページに掲載しています。【指導課】

全国新聞研究大会

◆全国学校新聞教育指導者講習会◆

【大会主題】人を育て、心をつなぐ新聞教育～書く力を育む新聞教育の追究～



第57回全国新聞教育研究大会が8月1日、2日に市川市で開催されました。

1日目の午前は、大和田小で公開授業が行われました。午後は市川市文化会館でオープニングセレモニーがあり、田中教育長、関係者のあいさつの後、基調提案や功労賞の表彰等がありました。その後、弁護士の神谷信行氏による「いじめの構造とその対応について」の記念公演が行われました。2日目は、同校で実践発表会及び実技講習会、研究分科会が開かれ、パソコンを使用した新聞編集等の講習会がありました。

新聞教育は「自分の考えや思いを伝えることができる」「伝える楽しさを味わわせる」「書く力の育成」を目指し、また、指導者が「生きた教材を教育に導入していく」ということが大切であることなど、新聞作りを通して、児童生徒の心を育成していく手立てを習得できた講習会でした。【教育センター】



自然に囲まれ、体験学習！



市川市少年自然の家は、市内小学校4年生の宿泊学習（グリーンスクール）に利用されています。自然に囲まれながらの野外炊事、季節の空の解説によるプラネタリウム観賞といった体験学習が行われています。今年度に入り、すでに市内30校の小学校が利用しています。

自然体験学習の中で最も子どもたちに人気のあるプログラムは、市川市自然博物館の学芸員による「自然観察」です。

学芸員手作りの「自然観察ビンゴ」を用いて、大町の自然観察園を散策しながらトンボ、チョウ、魚、などを見つけたり、「生物採集」「わき水の発見」等を体験したり、教室では学ぶことができない学習をしています。

自然を大切にすることはもちろんのこと、自然と共生共存できる実践力を身につけてほしいと願います。

【自然学習課】



家庭教育学級

進路 健康・美容 親業
思春期 子育て 食育
【テーマは多彩】



市川市の家庭教育学級は、昭和39年に『家庭において子どもを正しく理解し、健やかな成長を願って』という主旨のもと、小学校5校・中学校2校で開設されました。現在では市内全ての公立幼稚園・小・中・特別支援学校に合計62学級が開設されています。家庭は、すべての教育の出発点であります。本学級は、子どもを正しく理解し、健やかに成長していくことを願って、子どもに関わる様々な問題について、計画的・継続的に学習する場として開設されています。

今年度の自主企画講座は、前期（4～9月）で『154回開催』され、すでに、延べ約4,500名の方々が学んでいます。

家庭教育指導員（2名）を派遣して、校長の経験や国・県・市が発信する情報をもとにした講座も行っています。

さらに、11月15日、16日には、市との共通講座として『親子でチャレンジ！ボルダリング！！～わんぱく親子集まれ！～』という講座も計画しています。詳細は「共通講座のご案内」として各園・各校に配布しますので、是非、ご参加ください。

家庭教育学級は、子どもたちの望ましい育成を願う大人たちの学習の場です。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。【生涯学習振興課】

市川市放課後保育クラブについて

市川市放課後保育クラブは、保護者等の就労や病気等により放課後を保護者不在で過ごす児童に対して、家庭に代わる安全な遊び及び生活の場を提供し、健全な育成を図ることを目的として、市内43カ所(全小学校区39校と一部のふれあい館や公民館)に開設しています。また、平成18年度より指定管理者制度により、社会福祉法人市川市社会福祉協議会がすべての保育クラブの運営を行っています。

保育クラブでは放課後になると、保育クラブ指導員のもとで各自宿題や室内・外での遊び、おやつを食べるなどして過ごしています。学校とは違った異年齢集団での生活は、利用する子どもたちにとってもよい経験となっているようです。他にも、保育クラブごとに遠足やお誕生会などのイベントも催されています。

利用にかかる費用や入所の要件など利用に関する詳細につきましては、市川市教育委員会のホームページでご案内しているほか、青少年育成課窓口(南八幡仮庁舎2階)、行徳子育て総合案内(行徳支所2階)で入所のご案内の入った申請書一式をお配りしています。

年度途中の入所については毎月、青少年育成課で受付を行っていますが、新年度の入所受付については申し込みが集中するため、例年11月下旬～12月初旬の金土日3日間にかけて、会場を設けて1次受付を行います。詳細につきましては、11月上旬より広報・市川市公式Webサイト等でお知らせをまいります。

【青少年育成課】



様々な経験を

・

・

・

いちかわ子ども村



市川市青少年相談員は、子どもたちと共に喜び、共に語り、共に行動する事で地域の青少年健全育成推進の担い手として、子どもたちが元気に明るく成長していくためのお手伝いをしています。

「いちかわ子ども村」は、市内在住・在校の小学校4～6年生を対象に、市川市少年自然の家に宿泊するキャンプです。

今年は、7月26日、27日に「自然☆遊び☆仲間～いつもと違う夏休み～」をテーマに、班別対抗のスポーツゲームや水遊び等を行い、夕食は協力してカレーライスを作り、夜はホタル観賞会や昆虫観察で楽しい時間を過ごしました。

自分で考えながら行動し、他校の仲間と協力しながら、普段とは違う体験ができるキャンプは、家族のありがたさを再確認したり、新しい仲間との絆を深めたりするなど、子どもたちが一層たくましく成長する絶好の機会となりました。【青少年育成課】



《歴史博物館企画展》開催中!

小学3年生の社会科と関連 「昔のくらしと道具を探そう」

市川歴史博物館では、昭和30年代の衣・食・住に関する生活道具などを展示する企画展を開催中です。

本展示の特徴は、手押しポンプや、手回し式の洗濯機、蚊帳など実際に触れたり、中に入ったりすることのできる資料を多く展示している点です。

今年は市内小学校の古い写真や、大正時代の通知表、学校名の入った記念盃といった、学校関係の道具の展示も行っています。特に、通知表は「明德尋常小学校」という現在の南行徳小学校の前身の学校のもので、「ランプの光を直視するのはやめましょう」といった、当時の生活の様子がうかがえる記述があり、興味深いです。

また、小学校3年生の社会科の学習と関連した展示にもなっているため、多くの小学校が来館されています。初めて見る道具の数々を、子どもたちはとても興味深く見えています。

歴史博物館企画展「昔のくらしと道具を探そう」

日時：開催中～12月23日(火・祝)

9:00～16:30

休館日：月曜日(月曜が祝日の場合は火曜)

問い合わせ：市川歴史博物館 373-6351(9:00～17:00)



「博物館オータムフェスタ」で収穫の秋を感じるひと時を

芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋などと言われますが、秋は収穫の季節でもあります。秋の収穫にちなんだ考古・歴史博物館のお祭り「博物館オータムフェスタ」が今年も開催されます。

毎年好評を得ている焼き芋は、今年も行います。昨年は、用意した芋が午前中で全て売り切れてしまうほどの人気でした。今年は、十分な数の芋を用意していますが、確実にできたての焼き芋を味わうためには、早目のお越しがおすすめです。

普段は展示していない、歴史博物館の収蔵品を使い、収穫後の稲わらを加工して作る、ワラのリース作りや、組ひもづくりなども実施予定です。

参加費は、焼き芋以外は無料です。事前の申し込みの必要もありません。収穫の秋を感じるひと時を、ぜひ、考古・歴史博物館でお過ごし下さい。

博物館オータムフェスタ

日時：11月3日(月・祝) 10:00～14:00

場所：市川歴史博物館

歴史博物館隣接広場

参加費：焼き芋(100円)、その他無料

問い合わせ：市川歴史博物館 373-6351(9:00～17:00)



～子どもにかかわる相談は、ここです～

・少年相談(少年センター) 対象:小学1年生～20歳未満
家庭生活、交友や健康など様々な悩みの相談
TEL 320-3340 月～金(9:00～17:00 ※木のみ19:00)
eメール相談 youngnet@city.ichikawa.chiba.jp

・教育相談(教育センター) 対象:3歳～中学3年生
子育てや教育に関する様々な悩みに関しての面接相談
予約TEL 320-3336 火～土(9:00～17:00)

・ほっとホッと訪問相談(教育センター)
対象:小学1年生～中学3年生
主に不登校についての電話・訪問相談
TEL 320-3362 火～金(12:30～17:00)



平成27年度 市川市立小・中・特別支援学校 「学校評議員候補者」募集

学校教育に関心があり、学校運営について提言や助言をいただける学校評議員候補者を募集します。

各学校より公募による学校評議員の推薦依頼が教育委員会に寄せられた場合に限り、候補者(登録者)をその学校に紹介することとなります。

◆出願資格 学校教育に関心のある方で、成人であれば年齢職業不問。
◆募集人員 若干名
◆登録手続き 履歴書及びレポートの提出
◆募集期間 12月19日(金)まで
詳しいことは、下記にお問い合わせください。

市川市教育委員会 学校教育部義務教育課 教職員班

TEL 383-9261

FAX 383-9263

※問い合わせ時間 平日9:00～17:00